

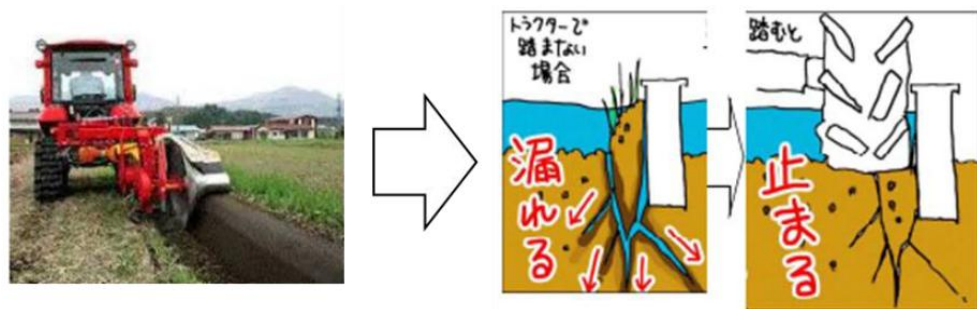


作付け再開ほ場における 春作業の留意事項

1 作付けを再開するほ場の準備作業について

（１）漏水が懸念される（昨年漏水した）ほ場で作付けする場合

- ① 亀裂からの沈下や崩落等による農作業への支障や事故の恐れがないかを確認しましょう。
- ② 畦塗機で畦を塗り直し、亀裂箇所を耕起した後、トラクターのタイヤ等で複数回踏み固めて漏水を防止しましょう。



（引用：大分県中部振興局農山漁村振興部集落営農・水田班）

- ③ 補修後、代かきは2回丁寧に実施する等、漏水防止に努めましょう。

（２）高低差が生じているほ場で作付けする場合

○高低差が10cm以内の場合は、ロータリーによる耕起、ドライブハローによる代かき作業により、できるだけ均平化を図りましょう。

※一般的には、水稻の生育に支障のない農地の高低差は5cm以内とされており、10cmを超える場合は専用の作業機（レベラー）や重機（ブルドーザ等）による均平作業が必要となります。



トラクター＋レーザー
レベラーによる均平作業

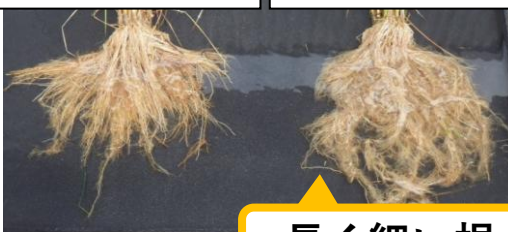
春の深耕で強いイネづくりを！

ゆっくり深く耕す（深耕）ことで
作土深15cmを確保しましょう。

⇒秋落ち防止・干ばつに強くなる等の
効果有り

慣行の速度で耕起
（約2分/40m）

ゆっくりと耕起
（約3分/40m）



長く細い根

2 減肥によるコシヒカリの倒伏対策

①災害復旧工事で水田内の土壌を整地したほ場、②休耕していたほ場や地力増進麦作付け後のほ場では、土壌中の有機物が分解して窒素成分が多くなり、元の作土と土性が変わるため減肥が必要です。

○基肥一発体系の場合

ほ場条件	基肥	追肥
①災害復旧工事後で水田内の土壌を整地したのほ場	3～5割程度減肥	葉色が淡い場合穂肥を施用 ※コシヒカリの場合、7月中旬(出穂16日前)に葉色が淡い場合、 「有機入り能登穂肥一発」を 10～15 kg/10a
②休耕していたほ場 地力増進麦作付け後ほ場	5割程度減肥	

上記のようなほ場では、「能登ひかり」等の倒伏しにくい品種を作付けすることも有効です。

※能登棚田米は化学窒素量の制限があります。
追肥の際は、JAまたは奥能登農林総合事務所までご相談ください。

重要

JA 苗の注文締め切り日について

農地復旧の状況によって、耕起や代かきなどの作業が遅れた場合でも、**6月10日までに田植え**を行えば収量への大きな影響はありません。農地を荒らさないためにも、できるだけ多くの水田に水稻を植え、奥能登の農業を守りましょう！

JAでは**4月24日（火）**まで苗の注文を受け付けています。

苗注文締切日	苗の受取日	出穂期見込み ※コシヒカリの場合
3月19日（木）	5月1日頃	8月1日頃
4月10日（金）	5月20日頃	8月6日頃
4月24日（金）	6月5日頃	8月11日頃

お問い合わせ先 JAのと 本店営農部 TEL:0768-52-3813

は種編

健康な苗づくりにおける留意事項

1 種子消毒

◆育苗期間の病害を回避するため、種子消毒を実施しましょう

表 1 種子消毒における薬剤の適用（参考）

薬剤名		使用時期	希釈倍率	処理方法	浸漬時間	薬液温度
テクリードCフロアブル(1成分)		浸種前	200倍	浸漬	24時間	10～15℃
タフブロック (0成分)	蒸気式育苗器で 催芽	催芽前	200倍	浸漬	24～ 48時間	10～15℃
	浸漬で催芽	催芽時	200倍	浸漬	24時間	30℃

2 浸種

◆浸種 1 日目の水温は、必ず 10～15℃ に保つ

- ・種子の目覚めには、浸種直後（8～24 時間）の水温が重要です。
- ・水温が 10℃以下の低水温で浸種を開始すると、浸種期間中に水温が 10℃以上になっても、発芽が揃わない場合があります。

◆浸種水量は種籾の 2 倍以上とし、2 日に 1 回程度水を交換する

- ・酸素を供給し、発芽阻害物質を取り除くため、2 日に1回程度水を交換しましょう。※ 薬剤吹付種子は、最初の 3 日間は水を交換しないでください。

表 2 種籾重量に対する浸種水量

種籾重量	3kg	5kg	10kg	15kg	20kg	40kg
水量(リットル)	6	10	20	30	40	80

◆浸種は直射日光や風の当たらない場所（屋内や風の当たらない屋外）で行う。

◆浸種の積算温度は100～120℃以上とする（コシヒカリは120℃以上）

- ・令和 7 年産種子は休眠が深いため、コシヒカリの浸種期間は、積算温度（水温×浸種日数）で 120℃以上を確保しましょう。

表 3 浸種日数の目安

水温	浸種日数
10℃	10～12 日
15℃	7～8 日

3 催芽 適温催芽（30℃）で発芽揃い向上！

- ・芽を1mmより長く伸ばさないよう注意しましょう。
- ・催芽を揃えるため、袋内の水温差を生じさせないように種籾は半量にしましょう。

表 4 催芽程度と催芽日数

催芽温度	催芽程度	催芽日数	注意事項
30℃	1 mm	1.5～2.0 日	芽が伸びすぎると、発芽ムラの原因になります



4 は種 育苗期間は 1 か月以内！

◆は種日は田植え予定に合わせて計画する

- ・育苗期間は 1 か月以内としましょう。
- ・農地や水路の復旧状況等により、
田植が 5 月下旬以降に遅れる場合は、浸種の開始時期を遅らせ、
育苗日数は 15～20 日間としましょう。

表 5 田植え予定日と適正な育苗日数の目安

作業名	予定日					
浸種	3月24日	3月28日	4月 4日	4月22日	5月 3日	5月12日
催芽	4月 4日	4月 8日	4月15日	5月 1日	5月12日	5月21日
は種	4月 5日	4月 9日	4月16日	5月 2日	5月13日	5月22日
ハウス静置	4月7日	4月11日	4月18日	5月4日	5月15日	5月24日
田植え	5月 1日	5月 5日	5月10日	5月20日	5月30日	6月 5日
育苗期間	27日間	27日間	25日間	19日間	18日間	15日間

※田植え時期が 5 月 20 日以降になる場合は、栽植密度を 70 株/坪とし、施肥量を 2～3 割程度減らす。

◆は種量は品種に応じて適正な量とする

表 6 主要品種の適正なは種量

品種	乾籾重 (g/箱)	催芽籾重(g/箱)
コシヒカリ	120	156
能登ひかり	140	182
ひやくまん穀	150	195

◆床土量やかん水量は、使用する培土に合わせる

- ・培土の種類によって床土量・覆土量・かん水量が異なるのでご注意ください。
- ※適切な使用方法是最寄りのJAまでお問合わせください。
- ・苗立枯病防止のため、「ダコニール 1000」の 500～1000 倍液を 500 mL/箱散水処理してください。
- ※タフブロックを使用した場合は、「ダコニール 1000」を使用できません。

5 出芽

◆出芽器を用いた加温出芽では適温の 30℃ に設定する

- ・芽を伸ばし過ぎると、軟弱で病気に弱くなります。

◆無加温出芽（平置き出芽）は出芽揃いまで保温資材で被覆保護する

表 7 加温出芽の目安

出芽温度	出芽日数	芽の長さ
30℃	2～3 日	8～10 mm程度

- ・保温資材で昼夜被覆し、高温日はハウス内が 30℃ 以上にならないよう、換気してください。出芽（約 5 日）後は緑化作業を行ってください。

